

財団法人 日本クリスチャンアカデミー機関誌

はなしあい

2011年12月号

発行編集人

財団法人 日本クリスチャンアカデミー
理事長 シュベネマン クラウス

発行所

日本クリスチャンアカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2115
振替口座 01020-1-5184

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第530号

「見よ、おとめが身ごもつて男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我らと共におられる」という意味である。「マタイによる福音書」一章二三節。

「見よ、おとめが身ごもつて男の子を産む」という言葉は、イザヤ書7章14節からの引用ですが、原語のヘブライ語の「おとめ」(アルマー)は、単純に「若い娘」を意味する言葉です。この「おとめ」が、ギリシア語に訳された時に、バルテノスという「処女」を意味する言葉に訳されてしまったことはよく知られています。「処女降誕」という信仰も、そのことと無関係ではないでしょう。私は、「処女降誕」というのは、(例えば復活に比べれば)、大して重要な教義であるとは思いません。全能の神であれば、そういうこともできるという程度のものであって、信じられなければ、それでいいと思います。

私は一九八九年ニューヨークのユニオン神学校に留学した時、あるクラスで、その頃

出版されたジェイン・シェイパーグ (Jane Schaberg) という人の『Mileinacy of Jesus』(一九八七)という神学書を読み、ショックを受けました。難しい題名ですが、「婚外妊娠の子イエス」という感じでしょうか。この書物は、イエス・キリストが超自然的な仕方で(つまり生物学的な父親をもたない形で)、

婚外妊娠により生まれたという話は、昔からキリスト教を否定する人たちによって言われてきたことですが、シェイパーグは、そういう否定的な動機ではなく、むしろ、そこからこれまでにない福音を聞きとろうとしているのです。昔から今日にいたるまで、貧しい環境で、性的にも虐待され、妊娠してしまう女性

「困難の中に生きる人のもとに」

関東活動センター運営委員 松本 敏之



生を受けたことに疑問を投げかけ、マリアは、何らかの性的暴力、恐らく強姦によって妊娠したのであろうという仮説を立てて、そのことを緻密な釈義によって論じていきます。

イエスが処女降誕ではなく、マリアが聖霊によって身ごもつた

たくださいました。一人で子どもを産む決断を迫られる女性もたくさんいます。彼女たちの多くは社会的にも差別され、厳しい状況にあります。マリアはいわばその代表です。神はまさに、そうした女性のもとにメシアを誕生させるという決断をされたのです。一見、神から見放されたように見える人々にこそ、「神は私たちに出会ってください。私たちが生かされています。」と告げられるのです。

「見よ、おとめが身ごもつて男の子を産む」という言葉は、イザヤ書7章14節からの引用ですが、原語のヘブライ語の「おとめ」(アルマー)は、単純に「若い娘」を意味する言葉です。この「おとめ」が、ギリシア語に訳された時に、バルテノスという「処女」を意味する言葉に訳されてしまったことはよく知られています。「処女降誕」という信仰も、そのことと無関係ではないでしょう。私は、「処女降誕」というのは、(例えば復活に比べれば)、大して重要な教義であるとは思いません。全能の神であれば、そういうこともできるという程度のものであって、信じられなければ、それでいいと思います。

「見よ、おとめが身ごもつて男の子を産む」という言葉は、イザヤ書7章14節からの引用ですが、原語のヘブライ語の「おとめ」(アルマー)は、単純に「若い娘」を意味する言葉です。この「おとめ」が、ギリシア語に訳された時に、バルテノスという「処女」を意味する言葉に訳されてしまったことはよく知られています。「処女降誕」という信仰も、そのことと無関係ではないでしょう。私は、「処女降誕」というのは、(例えば復活に比べれば)、大して重要な教義であるとは思いません。全能の神であれば、そういうこともできるという程度のものであって、信じられなければ、それでいいと思います。

「見よ、おとめが身ごもつて男の子を産む」という言葉は、イザヤ書7章14節からの引用ですが、原語のヘブライ語の「おとめ」(アルマー)は、単純に「若い娘」を意味する言葉です。この「おとめ」が、ギリシア語に訳された時に、バルテノスという「処女」を意味する言葉に訳されてしまったことはよく知られています。「処女降誕」という信仰も、そのことと無関係ではないでしょう。私は、「処女降誕」というのは、(例えば復活に比べれば)、大して重要な教義であるとは思いません。全能の神であれば、そういうこともできるという程度のものであって、信じられなければ、それでいいと思います。

(経緯録開教会牧師)

プログラム案内

◆関東活動センター

■アカデミー聖書講座

「新しい聖書の学び」
講師：山口里子さん (日本フェミニスト神学・宣教センター 共同ディレクター)
日 時：2011年6月～2012年3月の第一火曜日 全10回(月1回) 18:30～20:00
③2012年1月10日(火・この回のみ第2火曜日)、④2月7日、⑤3月6日 *①～⑦回目は終了
会 場：日本キリスト教会館6階会議室
参加費：1,200円(賛助会員1,000円/学生500円)
テキスト：山口里子『新しい聖書の学び』(新教出版社)

■アカデミー新年のつどい
「やっぱりふしぎなキリスト教…なぜ日本で成功しないのか?」

<第1部>
講 演：11時～正午
講 師：橋爪大三郎さん(東京工業大学教授)
日 時：2012年1月28日(土) 13:30～17:30
場 所：日本基督教団世光教会
参加費：500円

<第2部>
交流と想観：正午～14時
日 時：2012年1月14日(土) 14:00～17:00
会 場：日本キリスト教会館
参加費：3,000円(第1部のみ1,000円)

■宗教対話プログラム
「アラブの春～その背景のイスラームを探る」
講 師：鎌田敏さん(東京大学教授)
日 時：2012年2月25日(土) 14:00～17:00
会 場：日本キリスト教会館
参加費：1,000円(賛助会員900円/学生500円)

◆関西セミナーハウス活動センター
■認知症に関するプログラム
「認知症って何だろう～あなたも私

も無縁ではないこの病気のこと～」
講 師：中島健二(京都府立医科大学名誉教授)
日 時：2012年1月28日(土) 13:30～17:30
場 所：日本基督教団世光教会
参加費：500円

■お茶のこころと宗教のこころ
第3回「大友宗麟の生涯と大徳寺瑞峯院」
講 師：前田昌道(臨濟宗大徳寺瑞峯院住職)
日 時：2012年2月13日(月) 14:00～16:00
集 合：13:30大徳寺瑞峯院門前
参加費：2,000円(拝観料、抹茶含む)

■修学院フォーラム「福祉とこころ」
第2回「聖書に尋ねる福祉の思想」
講 師：岡山孝太郎(日本キリスト教社会福祉学会前副会長)
日 時：2012年2月18日(土) 13:30～17:00
参加費：2,000円、学生500円

クリスチャン・アカデミー ホームページ

財団本部
<http://www.academy-nippon.com>

関東活動センター
<http://www.academy-tokyo.com>

関西セミナーハウス
<http://www.kansai-seminarhouse.com/>

関西セミナーハウス活動センター
<http://www.academy-kansai.org>

財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
理事長 シュベネマン クラウス

本部事務局
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2115
FAX 075-701-5255

関東活動センター
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-19
日本キリスト教会館1F
TEL 03-3207-6198
FAX 03-3207-2478
E-mail: info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/
関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2115
FAX 075-701-5255

関西セミナーハウス
E-mail: info@academy-kansai.com

関西セミナーハウス活動センター
E-mail: office@academy-kansai.org

賛助会費・寄付金報告	
2011年10月1日～31日 (原不同・敬称略)	
◆関東活動センター	賛助会費
神谷 伊勢男 5,000	魚木 アサ 5,000
市川 邦雄 5,000	五十嵐 萬里子 3,000
上林 順一郎 20,000	杉野 榮 10,000
第3回神学生交流プログラム	魚木 アサ 3,000
大橋 祐治 5,000	中西 綾子 3,000
◆関西セミナーハウス	◆関西セミナーハウス
賛助会費	寄付金
宮田 満雄 3,000	中井 博雅 30,000
	京都音楽教育の会 2,750
	以上、感謝をもってご報告申し上げます。

お知らせ

関西セミナーハウス 改修工事

関西セミナーハウスは12月3日から来年3月15日まで改修工事を行います。営業は平常通り行っています。新しいセミナーハウスにご期待ください。

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23 Tel.075-711-2115
URL:<http://www.kansai-seminarhouse.com/> (予約できます)

